京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十三年　紀元二千五百七十年
本紙定價（一枚金二錢▲一ヶ月前金卅五錢▲三ヶ月前金壹圓▲六ヶ月前金貳圓▲郵税一ヶ月十五錢）
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金（▲五號活字十七字詰一行一圓五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢）
發行兼編輯人　高木久馬太
印刷人　松久神一郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所　京城新報社

雜錄

漢城より

（九日）　熊浦逸人

▲寺内山縣副統監着任の當時よりも、統監府及元の韓政府聘傭の官吏が急に甚だ出精するに至れる由を傳へられ、吾等は私かに之れを祝せしが、頃ろ還た徐々倦意の色あるを見し候、人事百般善きも一時、惡きも一時とか、寔に已むを得ざることながら、去りとは餘りに先人の馱落者を恪守することの忠實に過ぎたらずや。

▲數月前吾等は市民と共に、南大門外南廟附近中の新地なる魔窟の構へられたるを不都合なりとし、市民の意志を重んじて速かに其の禁止せられんことを當局に警告したり、然るに最近に至り當局は何等の理由ありてか係璽ある市民の意志を蔑視し、同所を遊廓地として指定せり、吾等は如何なる理由ありとも其の可なる所以を見ず、聞くが如くんば、當局は遊廓指定の條件として長期の營業を許可せざる旨を營業者に諭したりとか、或は市民に對するせめてもの申譯かは知らねど、不都合なる所行は寸時と雖ども之れを行ふは不都合なるべく、行はしむるは更に不都合にて候はずや。

▲倫敦タイムスのブラハム氏は寺内統監と對談の際其の自國に於ては文官出身者にして陸海軍大臣たるの例甚だ多しと語れる由、吾等は傳へ聞きて赧顏の至りに堪へず候、吾等原と寡聞と雖どもブ氏の語れる事實は之れを知らざりしにあらねども、今更にブ氏の言を聞きて羞恥を感ずるは理由無きに非らず、他なし、吾國に於て海陸軍に長官たらん者は、海陸軍人に其人あり、敢て之を他に求むるの要は無きも、若し萬一にも軍人以外に其人を物色して果して一人だも適當なる人物を得べしと思はゞ、开は以ての外なる無分別なるべし、一事が万事、專門の教育を受けたる御仁の其の專門の智識が甚だ以て深からざる代りに、專門以外の事物には一切無頓着なること驚く斗りなり、斯る程に其の學ぶ處に忠なるが如きも實は然らず、僅かに修め得たるところを濫用するにも極めて不敏なればなり、吾等は若し法學を修めたる人士にして機械學の梗概を學びたらんには、又は技術家にして法制經濟の一般を窺ひたらんには日本の文化は、文字の如く駸々乎として一層進歩の速かなるものあらん、而かも吾等は之れを今日に求め能はず、羞恥を感ずる所以にて候。

雜報

蔬菜栽培の秘訣

山口縣囑託　式田清三

（扁蒲栽培有益）

邦人朝鮮に於ける蔬菜栽培絶望を歎ずる者多く要は販途に困窮の點あるのみ假りに京城に於ける蔬菜販途狀態は述ぶる迄もなく彼の淸人は簡便なる經營と巧妙なる技術とを施し一面生計の度は無交際粗衣粗食に甘じ專心業務に熱中優盛なる蔬菜を操作り之より支出僅少の起因より打算し生産品極めて安價に競賣しつゝあり之れに反し邦人經營の蔬菜販途に至ては彼れに抵抗の起算鈍く常に淸人に數歩を讓らざるべからず先づ當分の間は朝鮮に於ける蔬菜は淸人の獨舞臺なりと言はしめんも過言に非ず曩日東拓羅島出張所試作圃に至り調査する所に依れば春蒔蔬菜にては馬鈴薯及甘藍等は豫想の利益を得るも他は販途の困窮する者の如し故に單純なる蔬菜栽培を營むも到底成功せざる主因たり亦茲に於て好望なる馬鈴薯及甘藍の量産出多からしむるときには需用供給の度合關係如何を考慮し余は農産製造に基き考案なし居れりこは單純なる手段の元に實行は蓋し覺束なし茲に簡便なる至適蔬菜且つ販途も頗る有望に關し多少斯業の彼岸に達する敢て遠きに非ざるものと確信し前項表題に掲げたる扁蒲（干瓢原顆）栽培は比較的容易にして製するも亦單純なり從て製造器具も自製にて用に達す販途は困窮の慮なく食料輸出品として有望なり左に一反歩の收支計算を

支出
種子代　四十錢
肥料代　十五圓
剝賃　二十圓
計三十五圓四十錢
外栽培中勞力賃金延七十八人一人平均四十錢此賃二十八圓也
合計六十三圓四十錢

收入
一株平均結果數　四顆　反當二百五十本植
總結顆數　一千顆
一顆乾燥量平均百二十匁
總乾燥量　百二十貫目
價格一貫目平均　一圓
此價格　一百二十圓
差引金五十六圓六十錢　純益金

文苑

文學勃興の秋（上）

閑々生

文學の發達するは治平の世に在り、天下正に泰平にして人々他に苦勞なし此時に於ては、閑に遊ばんとするもの閑に苦しむもの、心を閑に養ふもの、文學の思想油然として湧き、文學の嗜好沛然として起る、是に於てか、詩歌に思を凝すものあり、小說に考を勞するものあり、脚本に心を養ふものあり或は茶の湯に、或は插花に、或は歌謠に、是等は皆泰平の遊具にして治平と共に發達すべきものなり、若し夫れ天下は雷霆風激、治平の象全く去つて亂離の風吹き起るに於ては、何者か優々乎として文學界に閑を消するを得んや必ずや文學者の思ひは時勢の爲に亂され、文學者の聲は雷霆の爲めに慄き、而して天下幾多の讀者は文學界に遊ぶの餘力を失ふなる可し。

是れ實に必然の勢なり、試に日本の文學は何れの時に發達し、何れの時に衰替せしかを見よ、奈良王朝の昔し上下泰平に馴れ、槽馬時に嘶くも、鐵蹄稀に塵を上ぐるの際に當りて、一片武勇の氣力は月に消磨して、情緒正に濃やかに、文學の思想正に甜なり、是に於てか詩歌の名家輩出し、文章の大家輩出し、纖手筆を揮つて後世に文學の範を殘せるものさへあり、蓋し文學世界は情の世界なり、特に多情以て喜こぶものなり、例へば枯木の如きもの、武頑の人、徒らに政爭空論に耽る人或は俗務に遑々忙々たる人の如きは之れ文學界の人たるを得ず、宜なる文學の發達は常に治平の天地に在りて、亂離の世界にあらざることや、讀者若し例を日本の外に求むるも、必ずや余が言の背かざるを知るべし、羅馬のオーガスタス帝の治世は實に文學隆盛の時なりき、而して實に太平の瑞霧正に濃やかなりき、英國エリサベスの治世は實に文學極盛の時なりき、而して實に太平の瑞霧正に濃やかなりき。

講談

越後傳吉

大岡政談　第七十一回　旭堂南陵講

何しろ郡奉行の黑崎は傳吉を殺してしまふといふ了簡であるが、それだといつて無碍に殺すのは外役人、下役人の手前到底出來ませぬから、事情を附けて日々酷しい拷問にかけます、傳吉は最早や何と辨明をしても立たない、庄藏おうめを殺したに相違なからうといふ疑ひが益々深く、懸るとばかり、尤も如何なる罪にしろ拷問といふものはさう矢鱈にかけられるものぢやアない、ところが毎日〳〵手を替へ品を替へて行り到々二十一たびの拷問にかゝりました、どの位ゐ重罪者でも五たび六たびも拷問にかゝつたら口を上げる、この柔順い傳吉が二十一たびの拷問を堪へたといふその勇氣はゑらいもので、身に覺ねない罪をば拷問が辛さに白狀いたすといふのはまだ意思の弱い處があるが、覺ねなければないと苦しい我慢を茲まで仕遂げましてもう傳吉はアの拷問に堪へかねる、腰は拔けてしまひ、腹は背につき背は腹につく、瘦衰へて顏の肉落込み頰骨は高く宛然畫にある幽靈を見るが如き有樣、二眼と見られない、村方の衆一同以皆傳吉が牢へ入つた切り拷問といふ噂ばかりを聞き〇「彼の佛のやうなお旦那がオッ死んでしまふやうなことがあつては、この世は暗黑だソレ斯いふ時に佛樣を頼み、神樣を頼め」と村の寺、鎮守の森の神主が先達になつて太鼓を叩き合鉦を叩き、村內一同の者はワイ〳〵と騷ぎを初める、また寺々では釣鐘を撞く村の者を集め坊さんが先達になつて傳吉が無罪になつて出るやう七ヶ村がまるで傳吉一人のために鼎の沸くやうに騷いで居るのは實に人望といふものは大層なものでございます、おせんは傳吉が拷問といふことを聞て、貞女一遍の女だからハッと驚き、この折柄はわが身を殺しても旦那どんを助けなきやアならぬといふので水垢離を取り一生懸命に神佛に祈誓をかける、碌に食事も能う取りませんから日々瘦せるのが見わるばかり、ところが或日戸外から山附の脚絆甲掛け草鞋穿き、菅の三度笠を提げて道中差を一本打ッ込んで入つて參りましたのはおせんの叔父、越崎の宿の旅籠屋中村屋與兵衛で、閻魔與兵衛 與『エゝ疲勞れた、おせんや 仙『オゝ叔父さんで……』いふと我れを忘れたおせんが、パラッ〳〵と駈け出して與兵衛の膝の邊りへ必死と抱きついて後は何にもいはないでオロ〳〵流がす涙 與『オッおせん、泣くな〳〵、エイ折の惡いことだ、宿の衆に頼まれて江戸まで用があつて出掛けた奴が、ツイ話が縺れたもんだから、到頭岐路にまで入り込んで來たんだが、何だか旦那どんが捕ッつかまつて御牢內に入つたといふ話、漸う宅の者から急飛脚で言つて來た、マア手紙を見る落り取るものも取り敢ず飛んで來た、併しおせん、心配しちやアならねぞ、盜棒奴ッあんな佛のやうな小旦那どんどんに疑ひで牢へ入らうが、どんな處へ入らうが天道さまが光つてござる泣くな〳〵心配しないで確乎しろ、天道さまが助けて下さる、たゞ乃公が不在で心配さしたのは濟まん、ナニ……三度の食事も碌に喰はない、それは可けねえ、喰ふものは喰はなくちやア身體が持てない、エッ……朝も晝も晩も水垢離を取つてる、それは結構、だが、別に神樣を斷らないでもあれだけの小旦那、屹度た助かりなさるマア〳〵確乎しろ、サア話を詳しう聽してくれ 仙『叔父さん口惜しいッ 與『口惜しいぞ、何うも口惜しい、旦那どんは惡い事をする樣なお方ぢやアない 與『エイそれは分つて居る 仙『ソ、それが庄左衛門の倅の庄藏とおうめをば泉磧で殺して首を斬つて河へ流してしまふたとか隱してしまふたとか、二人の人殺しの罪人だといふので拷問にかゝつてござる 與『エッ、小旦那が拷問に…… 仙『ハア 與『フーム何の位ゐおかゝんなすつた 仙『何だか知らないが、毎日のやうに牢番の佐兵衛さんは、旦那どんの姿は見る影もございませんね、氣の毒でがすと時折妾の方へ傳言をようして下さるだ 與『さうか』ドッカと座り込だ與兵衛は腕を組んで暫く考へた 與『拷問にかゝつてござるとはこいつア知らなかつた」ヨシ、おせん確乎しろ、良人が無き罪の疑を霽て、牢へ這入つてござるそのときに、後に殘つた女房の汝が確乎しなくちやア物の治りが着かねえ、乃公が附いて居る、サア始と終を委しく聽かせろフ、ム……成程」一伍一什の話を聞いた與兵衛 與『こいつア庄左衛門の手から起つた仕事だナ 仙『叔父さん、妾等の考では旦那どんから、平素話を聽いて居りました彼の庄左衛門の奴のために斯んなことになつたに違ひません 與『フーム、さうだところで何か、その牢番の佐兵衛といふ人は心易いのか 仙『旦那どんが能く世話をしてある人…… 與『アゝ宜し〳〵、ぢやア一應旦那どんに面會しやう、お前を伴れて行つて、牢內でお目に掛つて調の模樣を旦那どんに聽かう、おせん、サア乃公と一緒に來るが宜い、確乎せい、佐兵衛さんといふ人を頼んだら會してくれるだらう 仙『そりやア會して下さるだ 與『ヨシ〳〵、造作はねえ」與兵衛はおせんに氣力を附け、早速着換へをしてそのまゝ直ぐ、我家を立出高田の城下へ出ました。



京城新報

内地人の心得

併合後在半島内地人の心得は、既に所在理事官に依りて論達された、邦人の韓國に出稼ぎしたる當時の心術は、總督府の新政に適應する所以で無いことは、業に已に周ねく了解されたるものと信ずる、余輩も亦前日内地人に對する一片の警告を與へた、而かも尚内地人の注意を喚起したき一事を殘して居る、因て茲に一言するのである、不敏自ら揣らざるの譏は余輩の甘受する處である。

余輩の一度論じたる如く、在半島の内地人は此際總督府の新政に適ふべく舊慣を離脱して、一面朝鮮人と輯睦し、他面自己の業務に精勵して以て繁榮を圖らねばならぬ、然るに朝鮮人との輯睦は姑らく措き、舊慣を離脱して自己の業務に精勵するの一事は、其の急に行はれ得べきや否や、余輩疑ひ無き能はずである、兎角人は善にまれ惡にまれ舊慣に泥むものである、一朝にして之れを捨つるは決して容易で無い、去れば假し舊慣を捨つることの遲くとも必ずしも罪惡ではあるまい、併し庸劣である、庸劣なるは遂に淘汰さるべき運命の下に在るのだ、半島在住の内地人にして、官吏と云はず、商人と云はず、工匠といはず、又農夫といはず、顧問政治時代、保護政治時代等時勢の推移を覺知せざるものは敗亡し、淘汰された、今後は總督府の新政に適應せざるもの必ずや敗亡し淘汰さるべきである、例せば、官吏は本俸の外に多額の手當金を支給され、過分なる邸宅に住ひ、少しの勤勞に對して多くの報酬を受くるに慣れて頗ぶる贅澤であつた、商人は自已の本業を外にして、貸家を建築し、金貸業を營み、或は土地賣買の周旋料を貪ぼるなんどは最も普通に行はれたることである、而かも彼等は甚だ貧しき資本を有するもので無ければ他人の資本を以てするのである、彼等の本業の如きも、多數需用者の便宜や利益を考ふる如きは其の念頭に無い、換言すれば社會の必要を充たさんとの心懸けは皆無である、彼等は必要以上の贅澤を顧客に強いて暴利を貪らんとするのであつた。

又銀行業者が内地人の聞きも知らざる高歩の貸出しを爲すが如きも今後の半島には適すべからざることである、此下宿屋にもせよ、運送屋にもせよ、料理屋にもせよ何れも資本及勤勞により正當に得らるべき報酬以外、幾許の收利あるべきものゝ淺薄にも信ずるやうである、然かも自今以後半島に於て斯る狀態の持續せらるべき理由は無いのだ。余輩は半島に於ける現在の内地人が將來の繁盛と、社會の重要なる部分を構成するに至らんことを希望するの餘り、今にして覺醒し、今にして改悛せんことを切に祈るのである。

東京電報

▲米實業團の來朝 澁澤男爵以下數十名 米國實業團の一行三十九名本月横濱に到着せしに就き澁澤男爵以下數十名出迎へ盛大なりき(九日)

▲各地出水と被害 長野、長岡、富山、石川、神戸、飛驒各地方の出水被害は慘憺たるものにして目下取調べ中なり(同上)

▲英國東洋艦隊來航 英國東洋船隊は愈々來る二十三日を以て横濱に入港の旨通報あり目下歡迎準備中なり(十日)

▲沿海州の漁業良好 本年沿海州に於ける本邦人の漁業成績は極めて良好なりき(同上)

▲獨前殖相の出發 獨逸前殖民大臣デルンブルヒ氏は昨九日午前八時四十分新橋發箱根京都奈良を神戸に到り同地よりロイド會社仕立紅葉丸にて瀨戸内海を見物の上下の關より朝鮮視察の途に就くべし

▲英艦救助絕望 濟州島沖にて坐礁せる英艦ベッドフォードは愈々救助の見込みなし(同上)

▲千葉代議士拘引 政友會所屬千葉縣選出代議士千葉禎太郎氏は本日突然拘引されたり罪名不詳(同上)

雜報

各地生産の狀況

最近各理事廳管内の生産狀況を聞くに左の如し

▲京城 忠州江華島邊の麥作は國内に於て作柄最惡しく昨年の六分方を出です大豆も漢江沿岸に在りては增水の爲め多少の被害を免れざるべき見込みなるが烏致院倭館海州延安各地に於ける米作は今日の處滿作の豫想なり

▲仁川 七月初めの降雨は農作に取り大福音なりしも全月を通じ雨量稍過剩の意味なきにあらず而も幸に月末又晴天となりたれば今日の處農作は概して豐穰を期し得べきが如し然るに漁業に在りては天候險惡の日多かりしを以て出漁船の數の減少と共に漁獲高極めて尠少なり七月中仁川水產會社に於ける水揚高は一萬八千圓にして前月に比し一萬圓の減少を來たせりと

▲鎭南浦 一時旱魃を氣遣はれたる天候も其の後降雨の順調なるを得たるが爲め殆ど農作は大体平作を見込み得るが如し但し小麥は降雨の聊か遲れたるより七八分位の見當なり漁業は漸次盛漁季に入り漁獲高增加の模樣にして七月中の水揚高は九千二百圓を算し前月に比し四千餘圓を增加せり

▲平壤 小麥は初期に於ける天候の頗る不順なりしが故に八分作を出でず粟は平作以上の見込みなり米に至りては豐作の豫想なるも時期尚ほ早きが故に未だ將來を斷ずるに足らず

▲木浦 稻作は六月初旬より七月半に涉る豪雨に依り概ね插秧を了し例年殆んど荒廢に委せられたる畓田若くは水量不充分の爲め好結果を得る能はざりし高臺の地方も本年は遺憾なく移植せられたる模樣にて成育振り頗る良好なる棉花作も引續ける降雨により雜草繁茂甚太しく爲めに聊か壓倒せられたる氣味あるも目下の狀況を以てせば先づ平作を豫想し得べきが如し又た近海浮游の漁類は鯛、鯖、大刀魚、鰯及烏賊等なるが七月中秋子島方面に於ける鯛鯖漁船は約十六七隻を出でず然も總て不漁の狀態なるを免れざりき

▲群山 稻田は大雨打續き土砂の流れ込み堤防の破壞等幾多の損害を被むれる爲め收穫減との說あるも大體に於ては今後の天候さへ宜しからんには豐作にして昨年より三割方の增收を期し得るならん夏季殊に野菜類は降雨の繁しかりしと且つ其量多かりしとにより過半腐敗せる模樣なり大豆、荏子の如きも非常の損害を被むり今日の處六分作ならんとの定評あり漁業は石首魚、鯛大刀魚の漁期既に去り目下赤魚、鱈等の漁獲あり漁船は四五十隻にして一隻の漁獲高百圓乃至二百圓に達すと云ふ

▲馬山 降雨多量の爲め米作は平年作以上の見込みなるも麥作及大豆作は頗る不良を免れず目下鯔漁の最盛期にして成績惡しからず鯛及雜魚の漁況亦良好にして移出盛んなり

▲釜山 例年七月は漁獲物減少の時期なるに加へて霖雨續き天候の不順なりし結果水揚高約二萬一千圓に過ぎずして前月に比し約五千圓を減退せり目下魚類は特殊のものとてなく鯛を最とし比目魚鰒太刀魚等の數者あるのみ

▲大邱 降雨打續きたる爲め例年水量の尠少なきに苦める場所は却つて水害の虞れもなく悉く插苗を爲し得加ふるに七月下旬より漸次日照り模樣となりたるを以て米作は豐穰の見込なり之に反し煙草作は降雨の爲全く發育を妨げられ非常の不結果なるもの〻如し

●郵便貯金五ケ年比較表

內地人及朝鮮人預入總高

年度別	現在人員	增加步合	現在金額	增加步合	備考
明治三十八年度	二五、八〇八人	……	三五〇、二三九・四三圓	……	年度末元加利子 一〇、三六七・〇〇五
明治三十九年度	四八、八三四	八、九二割	八三五、七四二・七五六	三、八六割	同 一八、二七二・九九八
明治四十年度	五九、八二八	二、二五	一、一九九、二五七・五五二	三、八六	同 三六、三〇三・五一四
明治四十一年度	八〇、五八七	三、四七	一、六七五、六五七・八四〇	四、四五	同 五〇、五八二・三一〇
明治四十二年度	一〇六、六四四	三、三三	二、三三一、六六一・一七七	三、九一	同 七六、九〇八・三七〇

朝鮮人預入高

年度別	現在人員	增加步合	現在金額	增加步合	備考
明治四十年度	四、二六四人	……	三〇、七一一・五五六圓	……	
明治四十一年度	一〇、九九九	一五、六七割	七五、八三三・七六〇	一四、六六割	
明治四十二年度	一九、四三六	七、六七	一一七、二三六・八九二	五、四六	

一人平均預入高

年度別	內地人	朝鮮人
明治三十八年度	一三・五七一圓	……圓
明治三十九年度	一七・二一四	……
明治四十年度	二〇・三一九	七・一六九
明治四十一年度	二三・九九〇	六・八九二
明治四十二年度	二五・三九二	六・〇三一

李王の宮中席順

李王公各殿下の宮中席次は不日御裁可を奏請し決定する筈なるが多分昌德宮李王、德壽宮李太王、李王世子三殿下は親王と王との中間即ち東伏見宮依仁親王殿下の下位伏見宮邦芳王殿下の上位に李堈公、李熹公兩殿下は王の下位即ち竹田宮恒久王殿下の下位と定めらるべし因に儀仗兵、衞兵敬禮途禮式等に就ても目下調査中にて遠からず之れ關する規定を發布せらるべきが當分は現行陸軍禮式に依ることに決定せりと

朝鮮國寶の決定

帝國國寶に編入せらるべき朝鮮國寶に就ては目下當局に於て孜々調査中なるが左記の諸品を國寶として保護せらる〻ことに略決定したりと

△佛像彌勒石像△大同仁陵墓(平壤に在り高麗以前のもの)△金首露王陵、同妃許氏陵△傳箕子井田石標(平壤、高麗)△慶州內城△大邱達城△佛國寺多寶塔△芬皇寺九重塔△石窟庵石窟△百濟塔元掘佛寺△四面石佛(慶州陽嘉淵塔)△介塔△蓮華經△八寶經△通度寺三重石塔掛陵△瞻星臺(慶州)

民團廢止の決定

今回新官制發布と同時に朝鮮に於ける居留民團制度は之れを廢止し其の事務は新設漢城府に於て處理する由尚ほ當局者は別に何等かの形式を以て諮問機關を設置すべしと

●總督府官制の內容 總督府の官制は九日上京したる石塚參與官著京後當局者と審議の上にて決定せらる〻筈なるが今其の一部に付きて漏れ聞くところに依れば既報の如く學部は廢止されたる上にて內部の一局となり其他各部の名稱は從前の如く度支部又は農商工部と唱へて總督府の一部となりこれに長官たるものは何々部長官と稱し新たに法制部の一局を設け地方に於ては京城に府尹を置き十三道は其儘として觀察長官を觀察使に換へ其官等は奏任又は勅任を以てし內地より敏腕家を移入することになるべしと云

●國立授產場と費目 近く京城に設立さる〻筈の國立授產場は其の資本を約百萬圓とし各種の產業を授くる計劃なりといふ

合併後の產業振興策(一)

合併後の朝鮮をして均しく皇化に浴せしめんとするには大に地方の產業を振興せしめざる可からず本社は此の趣旨に因り汎く諸名士の意見を叩きて順次之を紹介すべし

三井物產會社支店長 淺野長七君談

朝鮮の農產地たるは世の定論である、處で其の所產の物品例へば米、豆等價値の割に重量と容積の大なるものを需用地に致すには安き運賃を以て辨じ得る樣にするのが產業振興上最も必要なことである、加之朝鮮人の市場に於て購求する用品も金巾鐵製品等亦た重量と容積の大なるものなれば、何はサテ措き交通運輸機關の設備を必要とする、半島內地の主なる都邑間を連絡する鐵路の開通及鐵道の敷設、沿岸港灣の連絡を保つなどは今日に於ける最先の急務である、然るに叙上の必要事項は政府固より之れを遂ぐるであらうが、私の見を以てすれば、莫大の費用を投じて急に之れを遂行することは目下の狀態に照して容易ならざる困難である、故に寧ろ政府に於ては豫め線路を定めて、道路開鑿には農民を賦役し、地方長官をして監督せしめ、堅牢工事等農民の力に及ばざる處は政府之れを補くることゝするが可し、次に鐵道は生產地と官線若くは港灣とを接續すべく差當り輕便鐵道の敷設を人民に許可して、或時期に達し相當の賠償を與へて官に收むるなどは適當なる方法ならんと信ずる、又港灣の連絡は小汽船など用ゐて安き賃率を以て小なる港灣より大なる港灣に通運せしむることが肝要だ。

叙上は產業中、運輸に關する事項なるが農事其他生產其ののものに就ては吾等門外漢の容議すべき限りに非らずだ、而かも斯くせば農民の收入を增加し得るは自明の數である、隨て農具の改良水利組合、購買組合等を組織することが出來やう、是等も生產力を增さしむるの一手段である、此の外現在の金融組合の事業を擴大して農具の改良、種子の買入等農業資本の融通を便宜にせねばなるまい、斯の如くにして產業の振興、即ち農產地としての今の朝鮮の啓發は成されべきものと信ずる、若し夫れ工業、鑛山業等に關しては今日に於て論する事の寧ろ早計に失する嫌なからず。

關稅据置き問題は外務大臣の說明に依て明かなるが、既定の事實は如何ともする能はざる處而して列國との關係上輸入稅の据置きは已を得ざるに出でたるならんも、輸出稅は前年度輸出總額千六百万圓中千二百萬圓は內地に輸入したるものゝみなれば必ずしも列國に氣兼ねするを要せじ、特に其輸出品の重なるものは米、大豆等なるが、朝鮮所產の米豆が日本內地の相場の標準を爲すにも非らざれば、自由に輸入させるが可し、これが爲めに關稅の減額は僅かに七十万圓に過ぎず、其代りに人民の益する處は異に大なるものあらん一方輸入稅に關しては、列國との關係あるのみならず、今日本の稅率を課せんは朝鮮人に大なる苦痛を與ふる原因とならん、例すれば英國產の金巾の如きは日本の稅率は殆んど朝鮮のそれに三倍す、隨て金巾の騰貴、朝鮮人の苦痛となるべし故に如斯は据置きを可とす要之、政府が十箇年据置きとせずして何時にても改廢し得るの自由を保留し置かば、惟ふに產業の振興に益する處莫大なるものありしならん。

園藝品評會の設備

來る廿六日より農商工部內に開催の園藝品評會場は頗る高尚なる飾付をなし陳列品は一目瞭然たらしめ觀覽人をして右廻左折せしめざる樣注意し賣店等も便利を計りて設置し諸所に休憩所を設け觀覽人の隨意に休息させ晝食を足す爲めに清楚なる飲食店も開かせ万事完全したる設計なるが係員は其が爲め目下繁忙を極め居り出品物も追々到着し續々絶へざる模樣なれば愈々會場の準備に取掛り遲くも十日頃迄には全部の構造を終り裝飾陳列を二十日前後に

東拓社と監理官

韓國に於ける東洋拓殖會社の監理は從來大藏省に於てなし來れるが愈々拓殖局の創設と同時に其監理は大藏省より同局に移され同會社の農業漁業移民其他諸般の事業は總べて拓殖局の監督を受くることゝなり其結果大藏當局者の東拓會社監理官の業務は廢せられて茲一兩日中に其辭令の交附を見るべしと但し東拓會社に於ける社債募集杯の場合のみは依然大藏省の監督を受くべしと

●八月中の金融狀況

京城商業會議所調查に係る京城に於ける八月中の金融狀況を聞くに同月は七月に引續き不振たるを免れず時局問題の解決は一般商民に對し一種の危惧心を抱かしめ日鮮人共に著しく購買力減じ事業中止仕入れ手控の狀態にして資金の需用更らに起らず金利は久しく低落の步調を示し頗る閑散たり然れども追々蓄盆節季に迫りたる事とて中旬以後に至り韓人側に於ける決裁の資金準備其の他母國水害等の爲め俄に活氣を呈したる米穀買出綿布綿糸及び季節物仕入等多少資金の需用を喚起し或る二三銀行に於ては稍や多忙なりしが如く金融界に幾多の活氣を呈したるの感あり今八月末第一、百三十、十八の三銀行に於ける貸金及預金の概額に依れば三千餘圓の貸出減少を示し之れに反し預金に在りては三十六萬八千餘圓の增加を見たりと雖も是等は前月中一時引出したる預金のありしと第一銀行に於ける二十五萬餘圓の定期預金等重なるものなり一面金銀出納高を見るに前月に比九十一萬二千餘圓の增加を示せり又朝鮮五銀行に於ける帳尻を見るに預金に於て九十五萬餘圓貸出に於て七百七十八万餘圓を金銀出納高に於て三十八萬餘圓の增加を見たり然も其の大部分は直接商業に關係薄きが如きも各銀行共も金銀出納高の激增は金融界の多忙なりしを知り得べし而して月末に於ける日韓併合の發表は金融界に多少の變動を與ふるならんと豫想したりしに係らず何れも靜穩にして何等の著しき影響を見ずして經過せりと

●仁川穀物集散模樣

仁川穀物協會八月中賣買表如左

品名	數量
籾	一、二〇六、〇三七石
玄米	二、三六三、七〇八
白米	一五五、二六〇
大豆	一二七、九七七
小麥	一、一〇四、六五九
粟	一〇、〇〇〇

▲治外法權▼

▲我京城は武裝を解いた、言論は自由になつた、併し寺內統監は今に苦り切つて御座る▲官紀風紀の振肅素より結構な事だ、併し物には夫々程度と云ふ者が御座る▲記者は寺內御前の峻嚴政策を謳歌した一人で御座る、併し夫は併合の大事を遂行せる前後の事であつて今となつてはモハヤ少し位の飴を加へても害にならぬと信ずる者で御座る▲商人は不景氣、官吏は元氣喪失、今日の京城はマルで火が消へた樣で御座る、此分で長く續けばイヤに爲政者に向かつて怨聲を放つ者が出來るので御座る▲兎角世の中は一本鎗では旨まく行かぬもので御座る、彼の有名な幕府の改革大老水野越州が良い手本で御座る▲聞けば此頃其筋では市中の人氣附けにソロソロ手を廻して御座るソウだ、モシ本當なら中々味をやる〻と云ふべしで御座る▲今度の併合に就いて各理事官が管內居留民に向かつて論達をした、論達文の長短、意味の深淺何れも理事官其人の人格と學殖とを現はして居る▲居留民と云へば居留地制が近い中に無くなると同時に居留民の稱が無くなる、今迄の居留民は本籍を移して永住の半島人となる、聞く三浦理事官の如きは已に馬山に永住の基礎を据へ、居留地制廢止と同時に本籍取寄せの第一着者たらんと待ち構へて居らる〻ソウだ▲總督府官制の發表と同時に理事官が無くなるのは知れた事だ、サテ各理事官の身の振方はドウカ、聞く龜山釜山は本紙昨所報の如く臺灣に轉任すと、トはよく考へたものだ▲朝鮮側各小銀行の合同談が持上がつて居る、自然の趨勢上然るべきことだ。

●南大門乘降人員 九日の分左如
乘車客 七二六 下車客 五六九
乘車賃金 一、八八〇、二五

●南大門荷物發着高 九日の分如左
發送 四八噸 到着 二四〇噸
發送賃金 二九五、二六

●龍山驛乘降人員 九日の分如左
乘車客 一七八 下車客 一五九
乘車賃金 二九五、一六

●龍山驛荷物發着高 九日の分如左
發送 二八噸 到着 三一噸
發送賃金 四五三、九五

▲仁川米豆取引所▼

▲前場(十日) 十月一節九圓四十五錢▲二三節なし▲十一月一節八圓六十錢五錢九錢七錢▲二節五十五錢四錢一錢▲三節五十一錢二錢三錢▲出來高二千五百五十石

▲大阪期米電報▼

▲前場(十日) 九月限寄十三圓九十二錢▲十月限寄十四圓十五錢▲十一月限寄十四圓十九錢

▲仁川米豆取引所▼

▲後場(十日) 十月一節四十三錢四錢五錢七錢八錢五十錢一錢▲二節[illegible]▲三節[illegible]八錢七錢八錢▲出來高四千二百石

▲大阪期米電報▼

▲前場 九月限止十三圓九十五錢▲十月限止十四圓十二錢▲十一月限止十[illegible]
▲後場(十日) 九月限止出來不申▲十月限寄十四圓八錢止九錢▲十一月即寄十四圓九錢止[illegible]六錢

東京電報

飛行機の新發明

伊三郎氏發明に係る空中飛行船は昨日大崎に於て百米突の空中を自由に飛行し頗る好成績なりし(十日)

今日の運勢

九月十一日 舊八月七日 九紫 友引 [illegible]

公人私人

▲南廉次郎(農科大學教授)より入京し巴城館に投宿せり▲[illegible]同上▲草生政恒(步兵大佐)同日天眞樓投宿▲出淵勝次(大使館書記官)九日出發

飛行機の新發明

〔東京電報〕伊太利人[illegible]氏の發明に係る空中飛行船は昨日大崎に於て百米突の空中を自由に飛行し頗る好成績なりし(七日)

今日の運勢

九月十一日舊八月七日九紫友引日[illegible]△一白 新事旅行金錢貸借婚談相談見込なし遺失衣生[illegible]すべし△二黑 起業開店集會宴會見合せの事賣買取引金品授受故障あり△三碧 親族故舊の[illegible]あり其他大凡進んで吉△四綠 兒女及使用人の事注意を要す他は康寧△五黃 相談建[illegible]の事を斥くべし其他吉△六白 新事見合せの事建築及金融の事業には吉△七赤 [illegible]△八白 相談妥協婚談旅行起業開店に吉誘獎提言を斥くべし△九紫 取引上錯誤生じ易し新事旅行建築動土に忌む

九月十二日舊八月八日八白先負庚辰危 △一白 諸事控へ目の事取引金錢不動產上の事尤も注意すべし紛失避くべし△二黑 連盟共同協合婚談に吉負傷及斷生に注意すべし△三碧 [illegible]旅行見合せの事其他總じて損害迷惑多き日なり△四綠 不快の日諸事間違見込違多し婚談養子談は進行妨げ無し△五黃 軋轢辨濟中傷の起り易き日なり其他吉△六白 爲事程能く調ふる日なり但し紛爭不和の恐れあり△七赤 相談妥協婚談合婚談商談及豫約に吉酒色の害を戒しめ△八白 [illegible]旅行見合せの事[illegible]遺失防ぐべし△九紫 幸福の日大抵吉但し旅行及保證事々[illegible]す(本町五丁目三一館判斷)

太平町中の新地

▽十日自午前七時至午前九時

ポッツ〳〵と降る雨の中を立ち出づる太平町濟商恰泰棧の前で家鴨の生きたるを一羽と葱を五百目程負ふたる擔夫が來る、五百目許の**葱**が明かに**家鴨の命數を語**つて居る、流石にもの〻哀を感じた、洋裝した四十餘りの婦人が紺の蛇の目傘を翳して黑詰襟の洋服着たる所天らしきのを伴れ立つて睦しげに語り交して來る、二葉亭の手前の酒屋の妻君が細帶姿で飛び出して空を仰いで居ると旦那殿が小聲で『其樣姿して出るものぢやない』と叱る妻君ハツとしたらしく慌て〻引つ込む 下水路の修築工事で混雜して居る間を南大門通りに出る、各學校女生徒が本流に入る枝流の水の如く八方より此に落ち合ひて纏て校門に吸ひ込まれる、此れが皆良妻賢母になるのかと思ふと非常に嬉しい **南大門**が恰も韓僧をして其の股を潛らしめたる者の夫れの如く**大股擴げて立**つて居る、と夫れを口惜し相な顏もせず平氣で潛る韓僧以上の人物がノン〳〵ヅイ〳〵と澤山ある、僕が其股を潛るのを見合はして右側を通らうと決心した時向ふから——左側の——人力車が音もなく來る、呀ッ護謨輪かと見ると然うでない、音のしないのは灰の如な土が二寸餘りも堆積した上を行くからであつた 請負師野村君の所の前邊から**道**が嫌にゴツ〳〵する、**ナツメを押**し附けた**朝鮮餅**の乾枯びた上を歩行たら此樣もんだらうなぞと思ひつ〻未だ時間が早いので比較的往來の靜いのを奇貨として右顧左眄**東洋館の娘** 帳場格子の内に十六許りの色白の娘さんが稚兒髷に結ふた頭を覗かせて居る**美しい**ナと一寸立ち止ると娘さん眩しげに眼を瞬たく——何油斷がならないと云はる〻か決して左樣な次第でない如何に沒風流な僕の眼にも美しいものは美くしく見へるのだ誠に餘儀もない始末である、南大門郵便局の前の**待合所**にかしやありの札を見る一寸可笑しく思はれた、仲の新地の方へ曲ると何んと云ふ家か板塀の中に植ゑた**朝顏**が蔓を伸ばして**電柱**の支柱代りに引張つてある針金線に**捲き附**いて居る 加賀の千代女をして此れを見せしめたならば何んと云ふだらうなぞと思ひにも附かぬことを考へながら上つて行くと上の方から鶴嘴を揮つて道路を所々掘り散して來る人がある、善くない事をする人もあるものだと思ひつ〻相近づく、見ると夫れは例の棗に似た石塊を取り除けて居るのだ、何れ中の新地の**遊客保安**の爲であらう、翠樓と云ふのがある、貼札して曰く『都合に依り浪花樓へ轉宅仕候』と、**みどり橋**の中程に立つて**谷底**を見ると瓜や茄子は無いけれど今や**南瓜の花盛り**、其の南瓜の仇花の咲き誇れる中に誰が植へ棄てしか朝顏の瑠璃色せるが、ハラ〳〵と降る**秋雨を浴び**て崖に懸つて咲いて居る 遠きは人も山も森も薄絹に裹れたる如くにて見へ判かぬ、所謂中の新地に入る日の出樓の表格子は今洗ふた許りと見へて濡れて居る、た多兩樓の神棚に御神燈が淋しげに輝いて居るのみ少し大袈裟だが寂として大古の如しだ、雨にして此の靜さや廓の秋、ソコ〳〵に見棄て〻驛前に出づ驛夫の振鈴急にして人車の來り集るもの夥しい、**危險 道路の本色を發揮**して居る、車上の人は皆拳を握り唇を嚙みしめ息を潛めて居るげに見ゆる、イヤ串戯ぢやない(ぼく)

こて送付し其他の金は金指輪衣類其他雜品を買ひ費消したること發覺し警務總監部刑事の手に逮捕され檢事局に送られしが昨九日京城裁判所に於て懲役二箇年に處せらる

大工職兼掏摸

▽各人の注意が肝要

此の頃掏摸連が續々と入込み來り滊車若しくは電車の乘客の隙を窺ひ金品を掏盜る者多きにぞ其筋に於ては退治に從事中なるが宮崎縣人當時龍山本町三丁目大工職山下友太郎(三二)は表面大工職の如く装ひ居るも其の實滿洲及朝鮮に跨り掏摸を業となし居る前科數犯の曲物なるが去る七月三十一日午後七時三十分頃京城古市町通り電車中に於て同乘客なる龍山祇町八十五番戶の二居住古屋濟威なる者の隙を窺ひ同人の洋服のポケツトに入れありし金二百三圓六十錢入りの財布を掏盜り百圓を大連に居住せる妻山下ちかに宛て電報爲替

横濱の五人殺し

▽十日午前十一時東京電報

横濱市山本町鈴木寅吉氏の一家五人は自宅に於て昨九日夜何者にか慘殺されたり横濱の各警察署は直に非常線を張り犯人嚴探に着手せしも今尚縛に就かず

關西地方の洪水

▽八日夜迄の情況

關東地方の大水害を弔慰したる關西地方は六、七兩日の大豪雨に依りて河川汎濫して大混亂の狀態に陷れり今其の大略を報導せんに

▲濃飛地方 岐阜縣武儀及び可兒の兩郡より飛驒國益田、大野郡に亘り大慘害を蒙りつ〻あり就中武儀郡神淵村は神淵川の汎濫と同時に山拔け二十二ヶ所橋梁流失十四ヶ所死者四十七、行方不明六十餘人に及び交通不可能なり、可兒郡上阿蘇村の縣道名古屋街道は飛驒川の汎濫に逢ひて崩壞し下流木曾川筋は家屋及馬匹の死體流下するもの夥しく益田郡下原村、白川村等又稀有の慘害ありとの電報其筋に到達したるも何分調査を進むる能はずと云ふに徵して其の度を知るべし

▲阪神地方 寶塚方面は武庫川の汎濫に逢ひ沿岸の料亭、別莊等多く破壞したるも同溫泉浴客には別狀なく猶ほ同川一帶の沿岸村民は徹夜警戒せり有馬溫泉は交通杜絕し溫泉は全部泥水と化したるが一名の溺沒者を出したるのみ阪鶴線は木元附近(神崎線より十五哩の所)にて山崩れの爲め線路を埋めたる爲め不通となり神戸は蟹川の汎濫にて全市の浸水家屋三千九百餘戶に及び其他の被害又少ならかず

▲京都伏見丹波地方 も又同上慘害を被り嵯峨渡月橋は危險に瀕したりと

▲播但方面 但馬圓山川は八鹿及び豐岡町に於て約九尺播州揖保川は網干にて約四尺、多可郡中村の杉原川は増水六尺但馬朝來郡生野川は約五尺播州加古川は高砂にて七尺を増水し漁船一隻流失明石港口にある警報信號標は暴風雨の爲め根本より折倒し附近の家屋一棟破損せりと

▲阿波の大水 二日以來天候不穩降雨斷續し各川は増水し縣下郡部の交通杜絕せり吉野川は増水二丈四尺に達し尚増水しつ〻あり農作其の他被害ある見込み德島警察署及び市役所は消防夫警官を要所に派遣し警戒に着手せり市內及び郡部低地は已に浸水せり

▲讃岐の出水 五日以來大雨降り續き縣內何れの川も橋梁流失堤防決潰被害頗る大にして觀音寺町の東側を流る〻財田川の出水最も甚だしく新に架設したる長さ百三十間の上市橋流失の結果交通杜絕せり六日午前十一時に至り財田川遂に汎濫し目下觀音寺町は全部浸水し同地附近の田地二里餘は海に化し深さ三尺乃至五尺に及ぶ又綾歌郡土器川出水の結果丸龜市に浸水し警察官消防夫は極力防水に努め居れり

▲中國地方 五日夜來の霪雨の爲岡山縣各川出水し勝山町附近六尺津山町附近五尺岡山市附近八尺高梁川高梁町附近十二尺に増水し尚漸次増加の模樣あり、而して旭川岡山市附近は七日朝に至り俄に増水し今秋大演習準備の爲め改造中なりし後樂園行在所に通ずる鶴見橋の芥除二本を破壞し續いて上手に架設しある假橋を押流したり又上流よりの流失物の爲め各橋危險の虞あり岡山署より消防隊を召集し所々に屯在防禦中なるが降雨なか〳〵歇む模樣なく人心兢々たり

▲呉の出水 二日以來の雨未だ歇まず六日午後五時頃より各川増水巡查の非常召集消防夫の總出と成り非常を報ずる警鐘や太鼓の音物凄し呉市東本通新泉場町一帶に浸水し夜に入りて堺川上流堤防四箇所吾妻川堤防一箇所濱田川三箇所郷町の支流の堤防四箇所決潰し堺川上流にて橋梁の流失二あり茅地町新道路裏手の山崩壞せり七日朝來雨愈々強し何れも警戒に努め人心恟々たり

▲廣島地方 廣島縣下各郡共諸川非常の出水にて家屋田畑の浸水橋梁の流失道路堤防等破壞の箇所多く就中山縣郡南方村立川德藏(十八)は六日午後五時頃稻田に浸水するを防禦せんと工事中山崩れの爲め埋沒し即死を遂げ又安佐郡中原村石井辰次郎(四一)は根谷川に墜落し即死せり

▲九州方面 五日來の大雨にて筑後川増水し三井、三潴の沿岸に浸水あり稻作多少の被害あるべし

社告

併合記念號近日發刊

京城新報社

●仁川雜事

仁川萬石町六十三番地高橋よわ販賣のラムネ二十二本は腐敗し居るを以て投棄せしめたり ▲仁川濱町一丁目四ノ五尾西威(十三)は五六人の小兒と共に萬石町海岸にて遊び居り歸途同町木材會社の裏にて銀貨銅貨等在中の革財布を拾ひ巡回中の警官に屆け出たり ▲仲町一丁目福島組仲仕荒金藤市(三四)は九日午後六時本町一丁目路にて財布を拾得屆出

●兵士揚りの掏摸

大阪府大阪市西區九條町當時明治町一丁目日の出館止宿無職赤井留吉(三八)は勳八等の肩書を有するものなるが八月一日午前十時頃南大門通り四丁目漢湖農工銀行內に於て來合せたる中部香井洞十九統四戶池士文方止宿李昇翼の衣囊中より金四十九圓七十錢入り財布を掏盜取りたるを警務總監部刑事の探知する所となり逮捕檢事局に送られしが昨九日京城裁判所に於て懲役一ヶ年に處せらる

●取らずに捕まる

京城靑坡町十二番戶岩橋常三の家內一同八日午前七時頃他出し午後一時四十分頃歸宅し裏口より入りたる處溫突に一足の朝鮮草鞋あるより不思議に思ひ何奴か何奴かと二度呼びたるに六疊の座敷より一人の朝鮮人逃げ出すより常三は追駈け五六丁にして遂に取押へ靑坡巡查派出所高宮巡查に引渡したるが此奴は責ど云へるものなりしど

●酒に飲れた二人

佐賀縣士族當時本町八丁目八十二番戶居留南山町四丁目ラムネ製造所雇人田中市之助(五三)は友人本町七丁目陶器商吉村方雇人中村政治(三四)と共に何處で飲んだか泥醉の上八日午後五時頃蝎甫買ひに行き何かの間違ひより田中は蝎甫の崔菊香なる者を亂打し中村は障子を破損し南部署に突き出され譴責の上說諭放還

●車夫車夫を撲る

岩手縣西岩井郡湧津村西三十六番地平民當時龍山元町一丁目寺田覺太郎方車夫佐藤市太郎(三四)は九日午後九時頃龍山組の車夫金鳳明(二二)と花札の事より市太郎は金鳳明を毆打したるより金鳳明は憲兵分隊に訴出でしにぞ市太郎を召喚し說諭し放還されたり

●煙草に捉つた人

兵庫縣神戸市琴市町當時住所不定川崎捨次郎(三三)は九月六日平壤より當地に來り一定の住所職業を有せず諸所を徘徊中八日午前一時頃明治町二丁目露店朴來昌方の棚にありし煙草を竊取したる現場を取押へられ南部署に突出され檢事局に送らる

●內地人の面汚し

龍山柳町一丁目廿四番戶渡邊わかは朝鮮人梨太院李俊弘より二錢五厘の果物を買ひ一錢支拂ひて相手にせざるより李俊弘は憲兵に此の事を訴へしより上等兵出張し說諭の上一錢五厘を支拂せたり

●天野氏の結婚

三井物產會社當地出張所員天野雄之輔氏は今回宮[illegible]八郎氏夫人令妹ハルノ孃と婚約成り去る九日芽出度華燭の典を擧られたりと

公人私人

▲南鷹次郎(農科大學教授) 九日水原より入京し巴城館に投宿せり
▲[illegible](勸業模範場長) 同上
▲草生政恒(步兵大佐) 同日天眞樓投宿
▲出淵勝次(大使館書記官) 九日出發

日曜集會 十一日

▲メソヂスト敎會(旭町二丁目) 午前九時より日曜學校及び聖書研究等あり 午前十時半よりは禮拜說敎 木原牧師 大牧者 午後八時より三敎會連合聖書講演會

▲京城基督敎會(日の出町) 午前八時より日曜學校同九時より禮拜說敎 米澤牧師 人生の彈力 夜はメソヂスト敎會の講演會に參會

▲日本基督敎會(旭町四丁目) 午前九時より日曜學校同十時より禮拜說敎 大谷牧師 內住のキリスト 夜はメソヂスト敎會の講演會に參會

▲聯合聖書講演會 以上三敎會連合して今回來京せられたる米國聖書敎員養成學校長ホワイト博士を招じ其の講演を請ふべし日時會場左の如し 日曜日午後八時よりメソヂスト敎會 月曜日午後八時より 京城基督敎會

▲微笑會(初音町二丁目) 午後四時より同所臨濟寺に於て例の如く圓山太嶺禪師の無盡燈論提唱ありと云ふ

目と耳

▲歌舞伎座 合同劇十一日代狂言『寶之入船』一場『金廻し』三場『葛之葉』二場『文士劇』三場『狂ひ獅子』二場 次に十二日の代り藝題は左の如し 御祝儀『寶之入船』一場『共に苦樂』二場『吃之又平』二場『工女の色糸』二場『ちようちん行列』一場

▲壽座 天狗連の勸めに依り更らに二日間日延べしたる大島太夫一行十二日の番組左の如し

△十一日 御祝儀(登太夫)朝顏濱松の段(初音太夫)菅原東天紅(組代太夫)明烏山名屋の段(里太夫)忠臣藏六ツ目(組榮太夫)野崎村の段(大島太夫)大切千兩幟猪名川內の段掛合(御望に依り大島太夫隱し藝櫓太鼓曲引)

△十二日 御祝儀(登太夫)妹脊山花渡しの段(初音太夫)花雲佐倉曙儀作內の段(組代太夫)三十三間堂平太郎住家の段(里太夫)八陣八ッ目正清本城の段(組榮太夫)お半長右衞門帶屋の段(大島太夫)大切忠臣藏七ッ目一力茶屋の段總掛合ひ三味線(豐澤猿次郎)はやし連中

▲竹園館 十一日番組(十五錢均一)御祝儀寶の入船(入登)東天紅(廣吉)朝顏日記舟別れ段(越濱)忠臣藏八つ目本藏下郎の段(此重)梅川忠兵衞新口村の段(此千代)八陣八つ目正清本城の段(仙春)三十三所壺阪寺の段(隅照)玉もの前三段道春館の段(仙春)お染久松野崎村の段(廣八、大切千兩のぼり稻川內 總かけ合)

大阪期米電報

▲前場 九月限止十三圓九十五錢▲十月限止十四圓十二錢▲十一月限止十[illegible]錢
▲後場(十日) 九月限寄十三圓九十二錢止出來不申▲十月限寄十四圓八錢止六錢▲十一月限寄十四圓九錢[illegible]九錢

仁川米豆取引所

▲後場(十日) 十一月一節四十三圓[illegible]錢五錢七錢八錢五十錢二錢▲二節[illegible]錢五十三錢二錢一錢五十錢四十八錢▲三節四十八錢七錢八錢七錢八錢▲出來高四千百石